

土とふれあい、 地域で育む子どもたち

野上の尾関一夫さん所有の畑で、乳幼児学級いもほりが行われました。この日は天候にも恵まれ、秋の高い空の下、0〜3歳の乳幼児とその保護者ら25組55名が参加しました。

子どもも大人も土まみれになりながら、袋やバケツいっぱいサツマイモを収穫しました。「見てみて！大きいおいもー」と、自分の頭ほどもある大きなサツマイモを掲げ、得意げに見せてくれる子もいました。

保護者の1人は、「畑のお世話も大変だと思いますが、ボランティアで提供してくださっていると聞き驚きました。地元の方のあったかさを感じ、八百津で子育てして良かったなと感じます」と笑顔で話しました。



スギハラが繋いでくれた たくさんの命 サバイバーが来町

第二次大戦下、八百津町出身の外交官・杉原千畝氏が発行した「命のビザ」によって生きのびたサバイバーのベルティ・フランケルさん(80歳)と、その家族、イスラエル報道関係者が町を訪れました。フランケル氏は、金子町長を表敬訪問し、「杉原さんが生まれた町に來られて、とてもうれしい」と笑顔を見せました。

その後、八百津小学校6年生と交流しました。子どもたちは、杉原氏をモチーフにした人権創作劇「イエフダーと七つの灯」の一幕と、テーマソングを披露。フランケル氏も心を打たれ、立ち上がったて拍手してみえました。同氏は、「杉原さんは命の恩人。彼の素晴らしい功績をもっと多く



の人に知ってもらいたい。私も彼の人道的な行いを見習って、他の人を助けたいとも思っています」と子どもたちに語りかけました。

昼食後、「杉原千畝記念館」を訪れた一行は、命のビザによって救われた人たちの名前を記した「杉原リスト」から、父親や叔父など親戚の名前を見つけ、大変うれしそうに話していました。展示を熱心に見学され、孫のエデン君に当時の様子を話して聞かせていました。祖父から孫へ、平和への願いが語り継がれていくことの重要性を感じました。



地域とともに歩む学校 久田見小ふれあい祭り

久田見小学校で、毎年恒例の「ふれあい祭り」が開催され、保護者や地域のお年寄り62名が参加しました。

この行事は、地域の方や家族に子どもたちの日ごろの頑張りを認めてもらい、感謝の気持ちを伝え、楽しい時間を過ごすことを目的に、毎年この時期に行われ、トランペット鼓隊の演奏、学級発表、ふれあい活動が行われました。ふれあい活動では、

地域の方とカルタやトランプ、コマ回しなどで遊びました。参加した女性性は、「こんな風に子どもたちとふれあえて、とてもうれしいです。久田見小の子どもたちは、みんな孫みたいなもの。これからも元気に見守っていききたい」と笑顔で話されました。

